

6. 地域経済圏の結成と直接投資の変化に関する調査研究 人口減少化に直面する日本とその対外的対応

日本経済は、歴史的にみて諸外国に比して特に国際化の進展度合いが高いわけではなかったが、しかし近年海外生産シフトや対日直接投資が顕著に拡大し日本経済は国務化しつつある。このうち日本の経済成長の観点からみて、製造業の海外生産シフトは既に経済成長を抑制しているが、東アジアでの現地販売比率の低さを考えるとその抑制効果は拡大傾向にある。一方、1990年代半ばから外国資本の日本進出が増加しているが、その経済拡大効果は未だ限定的である。このため、現時点ではグローバル化は日本経済に負の効果をもたらしている。

グローバル化は、情報化、マネー経済化といった他の潮流と一連の潮流であり、これを阻む事はできない。グローバル化に対応するには、製造業の高付加価値・インテグラル型生産への特化、高齢化を生かした未熟なサービス産業の育成といった分野への産業調整が不可欠である。また、貿易・投資だけでなく金融・通貨の視点をも交えてアジア域内の体制を整備する必要がある。第1章「経済・金融のグローバル化と日本経済の変革課題」はこれらの問題点を指摘している。

世界経済のグローバル化と同等に、並行して日本は国内問題に対処しなければならない。最大の課題は不可避の流れとなった少子化と高齢化への対応である。日本はこれからも豊かな生活水準、つまり経済的にこれまでのような高い1人当たり所得水準を維持できるであろうか。そもそも人口減少の下で、そのようなことが可能なのか。第2章「少子化・高齢化の経済への影響」はその可能性を論じている。

東アジアからの日本の輸入において、「逆輸入」を中心に非耐久消費財をはじめ耐久消費財、機械機器製品が急増している。「逆輸入」とは、日本企業が海外に進出しそこで生産した製品を日本が輸入することである。一方、日本の輸出は機械部品をはじめとする中間財の比率が一段と高まっている。両者は表裏一体の関係にある。まず、1980年代中葉以降組み立て型の日本製造業企業が生産拠点を大量にシフトさせたものの、進出先でサポーティングインダストリー（SI）が未成熟であったためである。次に、輸入財に厳しい日本の消費者に対し、東アジアから良質かつ安価な消費財、さらに電気機器を中心にその他の機械機器製品を継続的に輸入することと対（つい）をなし、かつそれを担保するものであるということである。

日本企業が本格的に東アジアに進出したのは1985年G5の円高ドル安為替レート調整で、日本の輸出競争力が低下したためである。しかし当時意識されていなかった少子化・高齢化が次第にはっきりとした輪郭をみせ、今やそれが日本経済に直接間接大きな影響を及ぼすようになり、東アジアからの製品輸入の増大は別の意味を持つようになる。第1は結果として少子化・高齢化に伴う人口減少や労働力人口減少を先取りするものであったということである。第2は東アジアへの自らの統合。輸出の部品比率および製品輸入比率の上昇

はそのメカニズムである。第 3 は地域単位での「資源の効率的配分」である。つまり第 2 と第 3 は対をなす構造変化であり、両者は労働力の減少に見合った産業ストックの「適切なる縮小」を目指した第 1 の少子化・高齢化に伴う人口減少を先取りするものであったということである。第 3 章『急増する製品「逆輸入」とその含意』は財別の製品貿易収支から上記の問題意識を検証したものである。

この数年、中国企業が日本企業を買収するなど中国の対外直接投資が注目されている。中国は、まだ初期の段階であるが発展途上国の中では主要な対外投資国となりつつある。中国政府は対内投資とともに対外投資促進を対外経済戦略の柱に位置付けている。その背景には、資源獲得、中国企業の競争力強化、人民元切り上げ圧力緩和などの国家戦略がある。その一環として、中国企業の ASEAN への投資も戦略的進められている。中国は「出走去」と呼ばれる海外投資促進戦略を 1998 年に打ち出しており、ASEAN への中国企業の直接投資は 2000 年から増加し始めている。中国が ASEAN への海外投資を推進する目的は ASEAN との FTA 締結と表裏一体である。すなわち、ASEAN の市場と資源の確保である。ASEAN に対する経済協力も近年活発化しており、「FTA」、「海外投資」、「経済協力」の三位一体戦略により、ASEAN との経済関係の緊密化と経済的利益の確保を進めている。第 4 章「中国の海外投資と ASEAN」は、中国の対外直接投資の推移、現状、対外投資政策、企業の投資目的、要因を検討している。

中国と ASEAN ともに関係を強化しているのが日本である。第 5 章「日本とアセアン・中国」は日本企業の ASEAN と中国への進出動機とビヘイビヤの違いさらに中国への進出の意味を指摘している。直接投資と直接投資関連貿易を通じて、中国と ASEAN は一段と経済的貿易関係を強めている。さらにそれに拍車をかけているのが中間財とりわけ部品を供給している日本である。これを踏まえ、ASEAN 中国間貿易の特徴を製造業さらにそのうち特に電機・電子産業を取り上げて分析している。

1997 年のアジア経済危機後、ASEAN を取り巻く世界経済・東アジア経済の構造は大きく変化してきた。中国は東アジア経済における影響力を一層拡大し、また WTO による世界大での貿易自由化の停滞とともに FTA や新たな地域協力が、東アジアでも現われてきている。ASEAN はこれらの構造変化の下で、一層の域内経済協力を推進してきている。2003 年 1 月 1 日には、AFTA (ASEAN 自由貿易地域) が原加盟 6 カ国により一応確立され、更に AFTA の先に、AEC (ASEAN 経済共同体) の実現を打ち出し東アジアにおける FTA や地域協力における最重要な軸ともなりつつある。しかしながら同時に、多くの緊張も抱えつつある。

第 6 章「ASEAN 域内経済協力の新たな展開と加速」は、アジア経済危機後の世界経済の構造変化と ASEAN 域内経済協力の過程を振り返りながら、最近の 2004 年後半からの ASEAN 域内経済協力に関する 2 つの重要な展開について検討している。第 1 は、2004 年 11 月末の第 10 回首脳会議における域内経済協力へ向けての検討である。第 10 回首脳会議では、前年の第 9 回首脳会議の『ASEAN 協和宣言』に続いて ASEAN 共同体へ向けての

取り組みが話し合われた。優先分野の統合の取り組み、そして「ASEAN Vision 2020」を実現するための新たな行動計画の「ビエンチャン行動計画（VAP）」について検討する。第2は、2004年8月にタイで生産開始したトヨタ自動車のIMV（革新的国際多目的車）プロジェクトとASEAN域内部品補完について検討している。このプロジェクトが、これまでのASEANの域内部品補完流通計画の延長にあり、今後のASEAN域内経済協力にも大きく影響すると考えるからである。

東アジア経済において欧米企業や日系企業など外資系多国籍企業は東アジア諸国からの輸出拡大や経済構造の変化を促す重要な役割を果たしている。こうした多国籍企業はこれまでも中国等を生産拠点として位置付け、グローバルソーシングの重要な拠点として活用してきている。このような企業のグローバル化は生産面にとどまらず、近年ではITサービスや広範な専門サービスをインド等の途上国にアウトソーシングする流れが強まっており、企業にとって競争力や差別化の源泉として従来は本国に止まっていた研究開発活動においてすら海外にシフトする動きが見られる。第7章「アジアにおける米国企業R&D活動の拡大とその背景」は米国多国籍企業によるR&D海外シフトの加速化の流れについて、その要因、アジアの位置付け、今後の展開方向と日本や東アジアにとっての意味等を分析している。

長い間FTAの「空白地域」といわれた東アジアにおいて、2001年以降特にASEAN・中国FTAの締結を機に、相次いで同域内外でFTAを巡る動きが活発化している。それに関する論述が多いが、それにもかかわらず東アジア貿易構造の特徴と変化、さらにその方向が十分解明されているとは言い難い。

戦後世界貿易を牽引したのは、財では工業品そのうち機械であり、主要国・地域では日本次いで東アジアであり、日本を含む東アジアは世界経済・貿易で急速にプレゼンスを高めている。現在日本を含む東アジアは米EUとともに3極の一角を占め、3極の世界経済と世界貿易に占める割合はいずれも8割以上である。世界経済と世界貿易は事実上3極下にあるといっても過言ではない。3極は世界的な地域統合を推進するコアとなっている。東アジアにおいて2001年以降様々なるFTA構想が展開されている。地域としての経済的頑健性をみる指標として、域内貿易比率と対外依存度がある。東アジアは特に域内貿易比率が急速に上昇している。同時に域内貿易で、日本のプレゼンスの低下と、中国のその急上昇という構造変化が進行している。東アジアは域内貿易比率を高めているが、それは特に機械貿易における部品比率が高く、機械最終製品の輸出は依然主に米欧など域外向け比率が高いからである。第8章『東アジア経済統合の「インフラストラクチャとしての貿易構造」』は東アジアの貿易構造をワールドワイドからその動態と含意を分析している。さらに同報告は東アジアにおけるASEAN・中国FTAをはじめ域内外諸国による2国間FTAの動向を整理するとともにその先に収斂するとみられる東アジアFTA(EAFTA)をどう構築するのかそのロードマップを提示する。